
2023年7月 もちもちミニ講座

いつ行く？

どうする？

集団生活への進め方



集団生活のメリットいろいろ

- 生活習慣が身につく
- 社会性が育つ
- 遊びや生活経験が広がる、学べる
- 親が自分の時間をもつことができる（仕事、趣味、休息）



など

園選びのポイント



- 「百聞は一見に如かず」

実際に足を運んでその園を「体感」しましょう。

園や子ども達の雰囲気、先生の対応、通園方法の確認、給食とお弁当の割合など、園の特徴はさまざまです。

- 見学して先生と話しましょう

こどもがその園で安心してすごせそうかどうかをポイントに選んでいけるといいですね。

集団に入りたい
けど、発達が気
になって…



• 話してみよう

見学や体験、面談の時に、苦手なことやできないことを伝え、心配事をさりげなく相談していただくことをおすすめします。

療育に通っているなら、相談することで、園と療育施設、保護者が連携でき、こどもが園で過ごしやすくなる工夫もしやすくなります。

専門機関による訪問支援や職員加配の制度などが使えるところもあります。

園に行きたがらない…、なじめていない？



• どうかあわてずに…

ここなら安心！と思って選んだ園でも、初めの頃は泣く子もたくさん。環境の変化に敏感な子どもなら馴染むまでに時間がかかるものです。

行きたがらない時はあわてず、時には休んでリフレッシュするのも一つの作戦。焦らずゆったり見守る気持ちをもちましょう。

この子に合わないのかも？と思った時は、一人で抱え込まず、まずは園の先生や療育の先生に相談しましょう。

療育とは？

- 発達を促し、日常生活や社会生活を円滑に過ごせるよう、子どもの状態や特性に合わせて支援すること
 - 療育は「**環境を整えた**中で、子どもの成長が促される「**遊び**」を通して表現力、創造性やコミュニケーション力、意欲や自己選択・決定力など、さまざまなスキルを身につけられるよう支援するもの」
 - 療育は「親の学びの場」
療育を通して親が子どもとの関わり方を学ぶことで、不安が少なくなり、子ども本人にも良い影響を与えることとなります
-

療育とは？

- 療育の形態や頻度はさまざま

親子通園、または単独通園

頻度は週 5 回や月 1 回等、年齢やその施設によって異なる

- 療育の効果

療育はすぐに効果があるというわけではなく、基本的には長期に渡ってゆっくり着実な成長を促していくものです。時間がかかるものであることは理解しておきましょう。

おわりに

集団生活で大切なことは、こどもが安心して過ごせているか、です。

“みんなというより一人が好き”でも、安心して園で過ごせるならそれだけでいろいろな刺激を受けます。

できないことがたくさんあっても、“ちょっとできた” や “誰かに手伝ってもらってできた”も、十分な達成感になります。

そして達成感は発達の重要な糧になります。

子ども親も安心して集団生活を送れるように日ごろから園の先生と話せる状況をつくっておきましょう。

